

7年に一度のスーパーエルニーニョ現象ということ、2ヶ月前にニュースで聞きました。本当にそうなのかなと思っていましたが、現在のところ、進行中のこの頃です。例年ならば、テニスコートのネットもとくに外すのですが、今年は、まだまだできそうなので片付けないまま、自転車もいつでも乗れるように奥までしまっていない現実。志賀の山々もまだ白くなく、大地にも、ソリやスキーがまだ飾られていない日々です。お弁当や給食も、当然の如く連日外で盛り上がり、焚き火も、そう大きくならず済んでしまう朝の会。

雪がなくても、子どもたちは、元気に遊び回っています。雪がないお陰で、タマネギや麦の成長を見たり、麦踏みをしたり。厳しい冷え込みがあった日のおでんや温かい天ぷらそばを口にした時の子どもたちの顔は、やはり冬のそれでした。雪がなくても、生活の中に子どもたちはその季節の暮らしの顔を見せてくれます。

温暖化で今までの暮らしが当然のように続くとは限らない時代になってきています。同じように、今までの暮らし方や、子どもと共に暮らす環境や遊び方も変わってくるでしょう。この状況の変化を常に察知して、子どもの変わらない真髄と照らし合わせて、どう対処していくかを考えねばならない時代にきています。時代の変化に対応しながらも、決して子ども自身 子ども時代の特徴、特にシュタイナー理論の幼児の六つの特徴(身体の形成 運動 四つの感覚 模倣 自然の一員 メルヘンとファンタジーの世界)をぶれることなく考え実践できる環境を自分達の心に、子育ての姿勢にきざみ、整えていける大地でありたいと考えています。



## 【思い出貯蓄 思い出投資 子育て投資】

ある医師が述べている記事が目についた。患者さんで、幸せに旅立っていられる人は総じて、亡くなられる直前で、素敵な思い出の話を楽しげに語られるということ。

人生が終わりに近づいている方の中に「死ぬまでに 楽しい思い出をもっと残しておけば良かった」とか去られたあとのご遺族から「ケチケチせずにお金をもっと使えば良かった」などと悔やんでいる などの話も良く聞くということ。身体が動かなくなったり 病気になったりして強い後悔に駆られる、これはあまり知られていない 老いの現実のようです。「元気なうちにやりたいことをやっておけば良かった」という思いは、私たちが想像する以上に痛切なものみたいです。逆に言うと、やりたいことをやっておくと、身体のままならなくなった時期の、心の支えができるということ。「あのときは 楽しかったな」という数々の思い出です。

また、老いよりも前の 子どもが大きくなって子どもが離れて入った 50代後半の人達の後悔に「もっと 子どもと遊んでおけば良かった 子どもと過ごしておけば良かった」という声もよく聞きます。

人生のそして死ぬ前の財産は お金ではなく 思い出！！ 金持ちではなく 思い出持ち だから 思い出に投資して思い出を増やして貯蓄していきましょうか ということです。

自分自身の生活資金や家族子どもを養う為に資金を備え 貯蓄していくことは確かに必要で、家を買ったり、子どもの将来の学費を準備したり、また、自分自身の社会的経済的評価などの仕事にエネルギーを注いだりする人生が目立つなかで、今の時代 今の家族でしかできないような体験や深い充実した暮らしをする事に目をむける余裕がないことが、残念に感じられます。

小学校に入って勉強 中学に入れば 高校受験 高校から大学受験 大学に入ればすぐ就活準備 の時代、私たち 60代は 高校時代の思春期を謳歌し、親から離れて自由な学生(大学時期)時代を 旅したりアルバイトしたり様々な人とかかわったりして、話せば終わることのないたくさんの思い出がよみがえります。思い出に投資した分だけ、様々な技能や知識や技術、更に精神的な考えなど、物心両面の貯蓄がいつのまにか、増えていました。

結婚する前の独身時代の思い出、結婚してからの夫婦だけの生活の思い出、そして 子どもが授かり、いよいよ大地が誕生していく中での子育て、嬉しいことも楽しいことも辛いことも苦しいことも 全て 全力で取り組み、乗り越えてきたことも、全て 楽しい思い出 になっていきます。もちろん 思い出は、自然にやってくるものではなく、積極的な関わりがないとできないものであり、その深さも、心へのインパクトも、心と時間のかけ方に比例するように思えます。まさに「本当に楽しい思い出は、決して楽なことではない」(どこかで良く聞くフレーズに似ていますが)

先週の土曜日 長男家族が時差3時間のスリランカに向けて、長野駅から夜7時頃に旅立っていった。翌日曜日の深夜に無事着いたと言う連絡があり、すでに、その日の午後から海遊びで盛り上がり、カレーを食べて満喫して寝たらしい。さすが 初日から飛ばしているね！！と感心した。青ちゃん夫婦も、この春のヨーロッパ旅行も、初日のアムステルダム到着後も、時差をものともせず、姪っ子の家に着く早々、電車に乗って、街へ出かけて行って、姪っ子に同じ事を言われた。

スリランカに行きたい とちょこっと聞いたことがあり、子どもが大きくなってからいくのかなと思っていたところ、いきなり一ヶ月家族で行ってくるという連絡があり、多少驚いたが、あの子達だったら当然だな、やってくれるな と思いました。聞くところによると、スリランカは サーフィンのメッカだし、料理も 南インドよりもまだ南なので、食事もビーガンで問題なく、物価もかなり安いらしい。治安も大丈夫らしい。さすが いいところに目を付ける！！

あの家族、現金を得る仕事をしていないのに、どこからその滞在費や旅行費用を捻出しているのだろうと、疑心暗鬼しながら見守っている。それでも、いつも明るく幸せに元気に暮らしているので、見守る私たちも幸せだ。今回の旅も、家族で明るく準備している。驚いたのは、長い2ヶ月ほどのサーフボード2台と子ども用ボディーボード1台の遊び道具の荷物20キロを長男が持ち、妻は、28リットルのザックに家族四人の生活用具を背負い、前に2歳の次男を抱っこ 年長の長男は大地の子と同じようなリュックを担ぎ、皆サンダルの様相で出かけて行った。これで一ヶ月生活してくるんだという驚き。まあ、日頃のシンプルな暮らしそのものだな と妙に納得した。

スリランカまでの飛行機も、偶然にも 長女が数年前にスリランカに一人で籠もっていた(そう言えば 彼女も 行っていた)時に搭乗したのと同じで、スリランカの話で盛り上がっていた。

そんな子どもたちの姿を見ていて、素晴らしい思い出貯蓄投資をしている なあ、こんな若い時代から、家族子ども思い出に自然に投資できるなんて 幸せだなあとつくづく感心している。

そうそう、冒頭の医師の記事は 実は 60歳を過ぎた人達への提言。頭と身体がしっかりしている時間が限られてきた年齢層に、お金は 思い出を作る為に今後は投資しましょう ということ。

大地30周年記念パーティに来てくれた OBOG そして保護者達の面々は、大地の教育に行事に暮らしに本当に真剣に馬鹿馬鹿しく共に暮らした顔ぶれでした。共通した思い出がたっぷり詰まっている人達でした。

ノントン母さんは、来年6月某日に、どうやらイギリスアイルランドに気の合った大地 OG の保護者と出かけるらしい！？(この部分を書いているとき、偶然にもこの保護者からその旅行の日程表が届いた！！)

さて 青ちゃんは その間 山小屋で働くか 一人 自転車で旅に出るか 思い出投資を思案中。